

秋季年末闘争を突破口に、83年三里塚-国鉄決戦勝利 反動中曾根内閣打倒へ総進撃しよう!

12.10
動労千葉総決
起集会での。

中野書記長の報告より

日刊 動労千葉

82.12.16

No. 1221

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公電)三三三三(七)七二〇七

12.16 怒りの減産闘争をさうざうさうへ!

動労千葉は十二月十日、千葉運転区講習室において「仲裁々定完全実施・人勧凍結粉碎・中曾根政権打倒・八二秋季年末闘争勝利動労千葉総決起集会」を開催しました。集会には全支部役員・活動家を中心に百二十名が参加し、秋季年末闘争を突破口に中江選挙をやりぬき、来春闘にむかう激動の四ヶ月を全力で闘い抜く意志一致をかち取りました。

「日刊動労千葉」は、集会での中野書記長の基調報告の要旨を掲載します。

攻撃の本質は何か

「ヤミ・カラ」キャンペーンに始まった国鉄労働者に対する攻撃は、すでに一年を経過した。この攻撃の本質は何なのか。

これは国鉄再建といいつつ、実は国鉄労働運動をたたきつぶし、総評労働運動をたたきつぶす攻撃である。十二月十四日に発足する民間の右翼的再編と表裏一体の攻撃であり、支配階級と労働者の後もどりのない生死をかけた闘いなのである。われわれは、国鉄赤字が国鉄労働者に責任があるかのような政府・国鉄当局の仮象づくりを見破ってきた。

すなわち、一九八一年度は収入三兆四千億円、支出四兆四千億円で、国鉄への助成金七千億円を合わせた一兆七千億円の赤字である。「赤字」の中みは、長期債務の利子と元金返済で約一兆円、あとは、特定人件費(退職金)、定期割引などの公共負担などで、それを除くとトントンでやっている。来年度は、上越・東北新幹線の借入金で債務二十兆円になるが、国会が勝手に借金を決めて、それがあたかも国鉄職員に原因がある

かのように責めこんでいるのが、今日の構造である。

国鉄労働者の決起が世の中を変える。
三里塚と国鉄で、反動攻勢ぶち破れ!

労働運動が大きく体制内化の攻撃にさらされている中で、国鉄労働運動の掃すうが最大の焦点となっている。

「ブルトレ旅費」「現協」「乗車証」をめぐる攻防、「57・11ダイ改」闘争にくっきりと表われたものは、国労・動労千葉等戦闘的国鉄労働者の持つ巨大な戦闘力とその大爆発の現実性である。

動労「本部」革マルのごときは、情勢が厳しいからと当局のフトコロに飛び込み、国労や動労千葉の先兵として登場している。

鉄労は、民社党とつるんで「ヤミ・カラ」攻撃の材料を提供し、組織拡大をめざしている。

そして、この数ヶ月の間に、先輩がつくりあげてきた権利・慣行の多くを奪われてきている。

動労千葉は、十月の定期大会で、こうした攻撃は、国鉄労働運動を破壊し、あらゆる権利を奪い、反対勢力を根だやしにし、戦争の道にしか生き残れない支配階級の攻撃であり、われわれは秋の闘いを突破口に最先頭で反撃にたととの方針を決定した。

敵の攻撃は、国鉄と三里塚にしばらくおられ、ここで反動攻勢をうち返す勝負をいともうではなにか。労働運動が闘えない現状の中で、最強の砦で勝負できるのは逆にチャンスである。

動労千葉の存在は、天下のすう勢を動かせる位置にあることを自覚し、動労千葉の運動を拡げていこうと決定した。

反撃を開始した国鉄労働者。

「57・11」国労組合員の決起は偉大

以来二ヶ月間 大会でうち出した方針通り、世の中は動き出した。

「五七・一一」をめぐる闘争が開始された本格的攻撃をはね返すには、国鉄労働者全体の決起による政治的力関係の打開以外にない。



80年代中期の激動的階級情勢への突入を告げ知らせた、「10・11三里塚」から「57・11ダイ改」等に至る闘いを総括し、反動中曾根内閣とガツパリ闘いに組んでいよいよ本格的な83年三里塚-国鉄決戦に、動労千葉はうって出る。(報告は中野書記長)

強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

国労は、「五七・一一ダイ改」をめぐる合理化攻撃で国鉄当局が「協定を全部見直さねばならぬ」との自民党方針に基き、産報的協定文書を提示したことから決裂し、非協力闘争に突入した。

一方、動労「本部」革マルは、鉄労・全施労と妥結し、総評の国労支援に抗議し、「国労のストはメンツだけの闘争」などと庄殺策動を行い、松崎は、上越新幹線の一番列車はどんなことをしても動かすと当局に約束したのである。

「五七・一一ダイ改」闘争は、十四日、七時三十分に妥結したが、当局への激しい怒りを込めた国鉄労働者の反撃の闘いの端緒を切り拓いた。

全ての労働者の共同の闘いとして、 労働者の敵＝動労革マルの粉碎＝掃を！

「五七・一一」ではっきりしたことは、第一に四組合共闘が完全に破産し、国労の中で、動労「本部」革マルの裏切り弾劾・糾弾闘争が大衆的規模で開始されたということである。動労を牛耳り、太田労政のフトコロに入り延命を策す革マルをたたきつぶさぬ限り、国鉄労働者の権利を守る闘いの前進がないことが40万国鉄労働者全体の避けて通ることのできない絶対的課題としてつきつけられたということである。

これは、動労千葉が孤立を余儀なくされつつも、原則を守る闘い、八一・三を闘い、「革マルは敵の先兵であり、たたきつぶさぬ限り勝利はない」と訴えてきたことが、今や国鉄労働者の中に結実されつつある。

当然にも動労「本部」内で、多くの問題が起きている。

仙台では、年休闘争という当り前のことをやって「暴力的行為があった」として解雇された。

ところが中央委員会では、「情勢がわかっていない」「統制処分に値する行為だ」「仙台地本の指導が悪い」と自己批判を要求した。（「千葉地本」土屋梓は「千葉の二の舞をふまぬよう、仙台にも断固たる指置をとれ」と発言）

また、鹿児島では、革マルが大会を流会におこみ、書記長を要求する事態が起きている。

動労内のキ裂の深まりと、国労による弾劾攻勢の開始こそ、「動労大改革」への今一つの情勢の煮つまりを示している。大胆に決起するときだ。

仲裁・人勸凍結打破！ 超反動中曾根内閣打倒を

当面する闘いの第一は、仲裁々定実施・年末手当をめぐる闘いである。

政府・自民党は、人勸・仲裁を凍結し、また日経連は来年の民間賃金をおさえる発言をし、総じて労働者の賃金を抑制する攻勢に入ってきた。

中曾根は「仲裁は実施する」但し、「年末・年度末手当を含めセットで考える」とし、仲裁実施七五〇億円を年末・年度末でカットしようとしている。仲裁問題で差別・分断を許さず、総評半日ストを動労千葉の総力で闘おう。

検修大合理化を阻止しよう

当面する闘いの第二は、検修下回りを中心とする検修合理化反対の闘いと、内達二号改悪反対の闘いである。

「五七・一一」につづき、検修・施設・電気の中央三事業を年内におこみ、五九年二月ごろに「ダイ改」と称する大合理化をやるうとしている。

貨物を拠点間直行以外廃止し、全国の操車場を廃止し、そこで生み出される要員でやっていこうとするものだ。検査・検修分科を中心に全分科会員が年休一日をとり、局におしかけ、非協力闘争を配置しておしこんでいこう。

中江選挙闘争に必勝しよう

当面する闘いの第三は、中江選挙闘争である。動労千葉の闘いを地域に拡大し、市民運動をつくりあげるものとして、中江選挙を位置付けよう。第一次行動で市民の会をつくり「反戦・反核を闘い、改憲を許さない」訴えは、八千名の署名を獲得する大成果をかちとり、展望を切り拓いた。これを固め、そこを基盤に、地域に支持層をつくりあげよう。労働者の真の共闘をつくりあげる絶好のチャンスだ。

三里塚―国鉄決戦勝利、 激動の4ヶ月をたたかいぬこう

動労革マルのように後退するのではなく、根をはった労働組合をつくりあげよう。

そして動労「千葉地本」を解体し、動労大改革に積極的のり出そう。さらに、国労内で動労千葉の闘いに共鳴し、首都圏の闘いをけん引している人達との共闘連帯を強めていきたい。

世の中の動きは、鮮明となった。動労千葉の「三里塚」「反合」路線はますます輝きを増し、力を発揮する時代に入ったのだ。

「奪われたものは、いつか必ずとり返してやる」という気持で、当面の取組みとして、秋年闘争を突破口に、中江選挙をやり抜き、来春闘にむかう激動の四ヶ月を三里塚―国鉄決戦の壮大な階級的激突として、大胆に、意気高く闘いぬいでいこう。